図書館だより

第６号

２０１９年　１１月号

食欲の秋と読書　音楽と読書

～作品中の食べ物とあの歌の原作～

２冊を御紹介いたします。

１冊目は、井上靖　『しろばんば』と豊橋若松園の「黄色いゼリー」

➡本校図書館にあります！

井上靖氏は、「昭和最後の文豪」と呼ばれていました。

本当のことかどうかわかりませんが、昭和の時代に、私が大学一年生の頃、体育の授業がありまして、何と「柔道」の選択になってしまい、一年間柔道の授業を受けていました。その柔道の大学の先生が語ったところでは、「出版社に依頼して、今すぐ５００万円を用立てて欲しいと言われたら、証文を書かなくとも、顔で借りられるほどの信用があった」らしいです。井上靖氏も、金沢の学生時代柔道に熱中しており、同じ柔道ということで、井上作品を読んだと、その先生は仰っていました。その後、井上氏は、京都大学へ入学します。

その井上靖氏が書いた自伝的小説に、『しろばんば』があります。**幼年時代を豊橋で過ごしたその回想の中で、若松園の黄色いゼリーが登場します**。が、残念ながら戦火によりレシピが焼失され、創意工夫によって想像再現されています。少年時代を描いたこの作品は、当時は、大人の人間模様を少年の目から見たらどう映るのか、という点で斬新な作品だっただろうと思います。現在の、インターネットが普及した時代から見ると、大人には大人の事情というものがあるということが、ホームページなどで、それらが日常茶飯事のことであるということが、書き込みや動画投稿などから知られます。

黄色いゼリーを味わいながら、昭和初期の時代に、身を置いてみるのも、良いですね。

2冊目、柏原兵三の『長い道』と井上陽水の「少年時代」です。

昭和の時代、少年マガジンに藤子不二夫氏の漫画で連載された『少年時代』の原作です。漫画がヒットから、映画化、**その映画のテーマソングを井上陽水氏が歌って『少年時代』というタイトルで、大ヒットしました。「♪夏が過ぎ、風あざみ、…私の心は夏模様」というあの歌です。**

就中（なかんずく＝特に）取沙汰されるのは、**「風あざみ」という植物は実在せず、陽水氏の「造語」であるが、それは是か非か、という問題です。とても響きの良い、趣のある言葉であるので、心の中にすっと入ってくる、のが良いのであって、実際にどの植物が正確な「風あざみ」なのか理科的にはっきりさせる必要がなく、これが文学の文学たる所以のものだ、というわけです。**

私は、漫画から興味をもち、柏原兵三氏の『長い道』をぜひ原作で読みたいと思い、当時、復刊されたそれに飛びついて読みました。が、最近（令和元年１１月）に、大きな書店で、売られているのを発見しました。なんと定価は、６５０円。安い。即購入しました。

内容は、疎開文学で、東京から富山に疎開した小学生の私は、そこで、いじめとも、友情ともわからない、ガキ大将の同級生との不思議な人間模様を体験し語る自伝的心理小説と言えます。

柏原兵三氏は早世してしまいましたが、**御存命であれば、繊細な人間の心理模様を描き出したであろうし、彼の作品が『高等学校の国語の教科書』に掲載され、それらを教えていたかも知れないという幻想を抱きます。素晴らしい作品です。**

図・書・館・な・う　図書館の歴史が動いた

その一　読書週間の図書委員制作ポスター

コンピュータグラフィックなどの作品は今までありましたが、**切り絵**は初です。

その二　新聞配置変わる

葉山先生のアイデアで新聞を手に取り易くしました。朝日新聞、読売新聞は今日・昨日・一昨日の三日分を、英字新聞は四週間二回分を取り易く易く配置しました。

芸術の秋に相応しいですね。
読書の秋は続きます。
新聞も御活用下さい
数学の質問も OK です。（葉山先生）